

滝上町外国語指導助手

Jordy's コーナー

ハロウィンはアメリカの多くの子どもがお祝いする祝日です。公式の祝日ではないけれど、たくさんのアメリカ人が楽しみ、何かしようとしています。ハロウィンはもともとずいぶん昔にアイルランドから来たお祭りです。わたしも小さい頃、ドレスを着て家族とトリックオアトリート（お菓子をくれなきゃいたずらすぞ!）に行きました。

わたしたちは恐ろしく飾り付けられた庭や家のある近所の通りを練り歩きました。

今年の子ども英会話のハロウィン・パーティでは全員仮装をしました。魔女が一番多かったけど、その他にもジバニャンやガチャピン、赤鬼などいろいろなキャラクターに扮装しました。ハロウィンにはなりたいたいものに変装していいんです。まずはトリックオアトリートに使う袋にゴーストや蜘蛛などのステッカーを貼ったり、絵を描くなどして飾りつけしました。その後、その袋を持ってトリックオアトリートに出発です。わたしたちは阿部金物さん、マルキヤさん、江本さんにお邪魔しました。どこの場所に行っても子どもたちは「Happy Halloween, Trick or Treat!」と言い、飴やせんべいなどのお菓子をもらいます。子どもたちはワクワクしてとても楽しんでいるようでした。

トリックオアトリートの後はお待ちかねのパーティです。外はすごく寒かったので、温かいココアを飲みながら、いただいたお菓子を食べました。パーティの後、Bobbing for applesをしました。これはアメリカのハロウィンでよくやるゲームです。手を使わず、水に浮かんだリンゴに噛みついて取り上げるのです。難しいけれど、とっても楽しい!

滝上の子どもたちとハロウィンを分かち合って、とても楽しかったです!子どもたちの興奮した様子はわたしが家に帰った後も心に残りました。

※左の写真: 網走のハロウィンパーティで他のALTと仮装した写真

※右の写真: 子ども英会話教室でのハロウィンパーティの様子



おぐり アイ 小栗EYE



郷土館管理人小栗さんに収蔵品の紹介や、それらにまつわるエピソードなどを紹介していただきます!

「おひつ入れ」

開拓時代から家庭で愛用された、藁（わら）で編（あ）んだ「おひつ入れ」です。藁をふんだんに使って円筒形（えんとうけい）に編み上げ、藁で編んだかぶせ蓋（ふた）がついています。

昔はお釜（おかま）【=羽釜（はがま）】でごはんを炊きました。寒い冬の朝、ごはんが炊けると、木でできた「おひつ」【=飯櫃（めしびつ）】に移して、このおひつ入れに入れることで、保温しました。家族の人数によって、おひつの大きさが違いましたからおひつ入れの大きさも様々です。端切れ（はしきれ）を編み込んだ物、取っ手をつけた物、背の高い物、低い物など家庭ごとに工夫しています。寒い冬に少しでも「温かいごはんを…」というやさしさを思わせる品物です。電気炊飯器が売り出され、保温機能がついたことで、おひつが姿を消し、そしておひつ入れも見なくなりました。



おひつ入れの写真（郷土館保管）

おひつ入れに似たものに「いづこ」があります。主として藁で編んだ育児用具です。おひつ入れより大型で胴（どう）をふくらませて。蓋はありません。底に藁やぼろ布などをしきつめて赤ん坊を入れます。そして、赤ん坊が這（は）い出さないように周囲にぼろ布をきつくつめました。いづこの名前は、ごはんの保温に使ったおひつ入れ（=飯詰）と同じ作り方をすることからつけられたとも言われています。